

## 再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：鈴木 克宗

<b>事業名</b>	一般国道353号 松之山バイパス		<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	新潟県
<b>起終点</b>	自：新潟県東頸城郡松之山町東川 至：新潟県東頸城郡松之山町新山				<b>延長</b>	4.0 km
<b>事業概要</b>	一般国道353号は、群馬県桐生市を起点とし新潟県柏崎市に至る幹線道路である。松之山バイパスは、バイパス整備により幅員狭小、平面・縦断線形を解消し、円滑な交通の確保、日常生活圏の連携強化を図る、延長4.0kmの2車線道路である。					
平成7年度事業化	都市計画決定なし		平成8年度用地着手	平成8年度工事着手		
全体事業費	約97億円	事業進捗率	51%	供用済延長	0 km	
計画交通量	3,000 台/日					
<b>費用対効果分析結果</b>	B / C (事業全体) 1.3  (残事業) 3.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 37/94億円 (事業費：33/90億円) (維持管理費：4/4億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 124/124億円 (走行時間短縮便益：118/118億円) (走行費用減少便益：5/5億円) (交通事故減少便益：1/1億円)	基準年 平成16年		
<b>事業の効果等</b>	・国土・地域ネットワークの構築（日常活動圏の中心都市「十日町市」へのアクセス向上が見込まれる） ・安全で安心できるくらしの確保（二次医療施設「県立十日町病院」へのアクセス向上が見込まれる） 他4項目に該当					
<b>関係する地方公共団体等の意見</b>	一般国道353号は、地域ネットワークの構築、緊急時の安全性の確保等に重要な役割を果たすことが期待されており、沿線市町村で構成される「一般国道353号改良整備促進期成同盟会」より要望を受けている。					
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b>	特になし					
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b>	高館トンネル（L=1,202m）に着手し、平成16年度までに掘削を完了。					
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b>	地山が想定よりも脆弱で、高館トンネルの掘削に時間を要したが、補助工法の追加によりトンネル掘削も完了。平成20年度までに高館トンネルを含むL=1.6kmの供用を目指している。					
<b>施設の構造や工法の変更等</b>	新技術、プレキャスト製品の積極的活用、再生材の活用等のコスト縮減を考慮した計画となっており、今後一層の建設コスト縮減に努める。					
<b>対応方針</b>	事業継続					
<b>対応方針決定の理由</b>	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
<b>事業概要図</b>	<p style="text-align: center;">(終) 東頸城郡松之山町新山 (起) 東頸城郡松之山町東川</p> <p style="text-align: center;">一般国道353号 松之山バイパス L=4.0km</p> <p>5号橋 L=135m, 4号橋 L=130m, 3号橋 L=120m, 2号橋 L=120m, 1号橋 L=106m, 高館トンネル L=1,202m</p> <p>至 松代町 至 津南町</p> <p>凡例                  供用中                  再評価箇所</p>					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。